

勝林寺奇報

安樂國をねがうひと
正定聚にこそ住すなれ
邪定・不定聚くになし
諸仏讚嘆したまえり。

正定聚・邪定（聚）・不定聚といふのはいわば宗教の道を歩む人を三つの部類（聚・あつまり・なかま）に分類した言い方です。

邪定聚といふのは、全く見当違ひの道をとんでもない方向に向つて、がんばって歩んでいく人たちです。仏様やお淨土というものを自分勝手に見すえて、それに向つて祈願したり修行を積んだり善行を勵んだりして、たどりつこうと努力している人です。

不定聚の人は、正しい道をその方角に向つてはいるのですが、まだ如来さまやお淨土が見えないために、疑心暗鬼、手さぐり足さぐりのお念仏を称えている人たることです。そういう人たちには、悲しいことはあるが、とうてい如来さまのお淨土には生れることはできなきなのだ。「くにになし」と教えてくださっているのです。

それはなぜかといつて、お淨土は「願力成就の報土」です。如来さまのはたらかれる「無量光明土」です。その如来のおはたらきに目をつぶり目をそらして、わが身勝手な方角へどんなに励んでも如來の世界・親のこころの世界にはゆきつくことはありません。

仏道は仏の道です。仏力です。如来のはたらきが仏道です。

その如来のはたらき・仏道に乗托してこそ私が仏になる道がひらかれるのです。

如来さまのおはたらきお念仏（よび声）によびさされて、「凡夫のこの身のままが如来のいのちの中、おはたらきのなか」と知られ、手さぐり足さぐり無用と気づかせていただいたその一瞬に、往生決定（よがてこの世の縁つき）れば、如來光明のお淨土へ生れるに決定した聚（なかま・部類）になるのです。それが正定聚

です。

このように仏道というものを、てつてくして

「仮の道」「仮の力」と見たならば、（墨鏡様を始めとした七高僧さまはみな「仮力」をかたられたのです）当然、凡夫の往生が決まるのは、人間の修行の力や善行の力や称名の力ではなく、まして人の死にぎわに決まるものでもないということが

わかります。
凡夫の往生淨土のことは、たとい身はこの迷いの世にあつても、お念仏の中で如來さまによびさされた「信の一念」でまとまるのです。

「安樂國をねがうひと／正定聚にこそ住すなれ」とうたわれたのです。

権力争いの時代、戦国時代のまつだなかで、ひたすら人々の平和を願いたいお念仏の道を守るため、石山合戦など身をはつてたゞかいぬかれた「頭如上人」の四百回忌がやがて巡つて参ります。その年はまた本願寺が京都の今地に移つて四百年目に当ります。

この年（昭和六十六年）に当つて、あらためて頭如さまの平和とお念仏を守られたおこころを思い、そのお念仏を子や孫に伝える事業をすゝめなければなりません。

勝林寺は、今年頭初の代議員会に

おいてこの事業に応分の参画をする

ことを決議しました。

その決議に沿つて去る八月末、門徒割百七十三万円、住職分二十四万円を本山へ完納致しました。

基本会計より一応支出しました。

これの処理につきましては六十三年度代議員会で協議することになつております。

十一月九日

アメリカ便り

「ハロウイン（というお祭）の記念に卓馬は口に牙をはめているのでちよつと変です。うしろにあるのは二人が学校で作つてたハロウインにちなんだ工作です。卓馬はデビル（悪魔）由衣はエンジェル（天使）の仮装をしました。前にならんでいるのはカボチャをくりぬいて作ったこわいランプです。家々で工夫したこのパンプキンランタンが中々見物です。仮装した子どもが家々を回り「トリックオワトリート」とおどかしてお菓子をもらつて歩きます。」

とどまらず
うすくまらず
とにかく動く
仕事を教えてくれる。

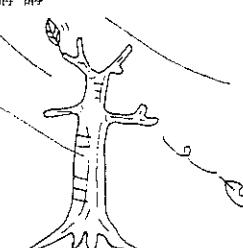
仕事

教えてくれる。



十二月のこよみ

一 日 奥栗尾報恩講
二 日 正法寺報恩講
三 日 墓坂報恩講
四 日 唐川報恩講
五 日 佐田報恩講・鉢山報恩講
六 日 東里・太田報恩講
七 日 小田報恩講・森藤清忠氏宅法事
八 日 西山真澄氏宅法事
九 日 保谷報恩講
十 日 市場報恩講
十一日 野尻・矢根報恩講
十二日 矢根報恩講
十三日 佐福寺恩明
十四日 專福寺報恩講・小田報恩講
十五日 「正日会」
十六日 東里・太田報恩講
十七日 小田報恩講・森藤清忠氏宅法事
十八日 西山真澄氏宅法事
十九日 佐福寺恩明
二十日 佐福寺報恩講法話
二十一日 細千徳米寺報恩講法話
二十二日 細千徳米寺報恩講法話
二十三日 細千徳米寺報恩講法話
二十四日 兵庫教区企画推進室会議
二十五日 百合・桐野・寺坂・日野辺報恩講
二十六日 「みのりを聞く会」忘年会
二十七日 口小谷報恩講
二十八日 すゝはらい
二十九日 十日講
三十日 お鏡
三十一日 丸中・片岡報恩講
除夜会



「代議員会」について



六十三年度の「代議員会」を二月十四日（日）に開催する予定です。
「議案書」は例年通り一月末に届けます。
各地區そのお心づもりをお願いします。
なお、門徒総代の改選期になつております
ますのでこれもおふくみおきください。

私のお念仏

口小谷 宮嶋 千秋



どこの村でもどこのお家でも「報恩講」が勤まる季節になりましたが、阿弥陀さまの広大無辺のみ光りのはたらきの一つに、「覺」一おぼえる・めざめる・さとるというはたらきがあることを私は思わせていただいております。ですから如来さまのことを親鸞さまは「無上覺」とか「解脱(ゲダツ)」の光輪」とか言われたと聞きました。

この、おぼえる・さとる・めざめるという力は、すべての生きものすべての衆生に与えられてあります。ご和讃には「平等覺に帰命せよ」とたゞえられています。植物が毎年芽をふくその自然のめざめも、動物が生きしていくのに必要なありのままの行動は、だから教えられるのもなく自然に与えられ身についているものだと思います。物が生きていくのに必要なありのままの行動は、めざめ・眞実をさとるという力を与えられているように思います。

人にしかない「ことは」いうものは、その考え方・めざめ・さとり・おぼえる力のなかから生れてきたものではないかと思います。自分の力で覚えさとり立派になつたよう思つても、この覚え・めざめ・さとる能力を与えられていなければ、おそらく、少くとも人間として生きしていくことはできないと思われます。

賢こぶつた、こさかしい、いま出来の人間一人のちからはもろいものです。やはり、多くの長い祖先によつて積み上げられたちからがほんのうです。

大昔からの祖先から、教えられ、伝え、覚えて今の生活はずいぶん進歩しました。ぜいたいなるものとさえなつています。もつたいないことです。

あるところで、現代の機械の力で立派につくられた堤防が、いつべんの水害で無惨に破壊されているところを見ました。にわかに造られたと

ころは、よほど注意しないとくすぐれるおそれがあります。長い間に積み重ねられたものは、なかなかくされることはありません。

ご祖先さまを通じて伝えに伝えられたこのお念仏は、私たちを目覚めさせさせとらせる如来さまのおはたらきです。

お念仏申すとき、ハツと私は私のほんとの姿がりな生きかたをしている私にハツと気づかれます。

そしてまた、お念仏を申すとき、その恥かしい私にこそはたらいてくださる如来さまの力のあります。

私は、こんなお念仏をいつおぼえたのでしょうか。

それは、毎年毎年報恩講をつとめて、お念仏のなかで私を育ててくれたさつたご祖先のおかげだと、今さらもつたなく思うのです。

このように多くの先祖を通じて、私をめざめさせ、私をさとらせる如来さまのちからが、すべてのものに今はたらいてくださるのだと思いました。

光があつてはじめて闇(やみ)がみえます。光によつて闇は破られめざめさせられます。

お寺の報恩講のご法話で、出石組の組長先生が、如来さまは今この私のなかにあつて、たしめ励ましていくくださつてることを詳しくお説きくださいました。

めざめ・覚え・さとる能力の有難さを、いま一度思いなおしてみなければなりません。

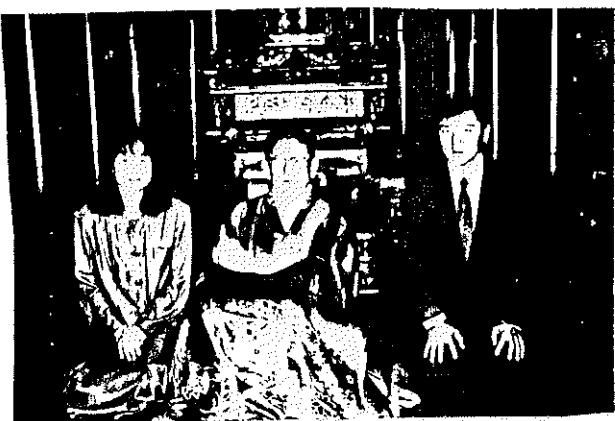
眞実をみつめ覚り、人間のありかたについて教えられた宗祖親鸞さまのおころを、私たちが改めて話し合い思ひおこすのが、それが「講」というものの意味であると思います。

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏。

死はどんなに逃げても、目をふさいだれにでも必ずすぐにやつて死にむかつて生をとのえよ

岩上 理恵ちゃん

おめでとう初参式



十一月三日、岩上

理恵ちゃんが初参式にお参りしました。

理恵ちゃんのおとうさんは、上小田の岩上三喜夫・加代子さんの次男秀行さんです。J.R勤務で和田山にいます。

今年の3月の一寺報に掲載しましたところ大変好評でした。また白菜のおいしい季節になりましたので再び紹介いたします。

どうぞおためしください。
寺のお講がすめばすぐにご門徒各戸の「報恩講」が始めます。

報恩講にぎにぎしくおつとめ

十一月二十一・二日は例年通り「報恩講」がつとまりました。

「報恩講」を前にして十八日、仏事・お華足」を立派に仕上げてくださいました。また龜井・中島・中川の諸師によつて立華も立てられました。

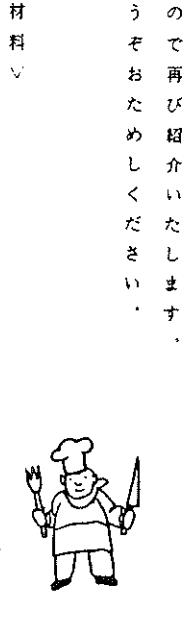
いつものことながらご門徒全部でお待ちかねなりません。

当日は但馬にめずらしい好天・ご法中ほとんど全員ご出勤いたいたことも喜ばねなりません。

出石組組長正福寺の山崎一朗ご講師のご法話を総代を中心満堂の参詣ご門徒が感銘あくまで聴聞しました。「おとき」には百三十人余の方がついていたきました。仏婦役員・坪口棟見の仏婦が担当した台所はほんとに大変ありました。

寺のお講がすめばすぐにご門徒各戸の「報恩講」が始めます。

白菜の即席づけ



白菜 1kg・砂糖 大匙1・塩 小匙3・酢 大匙1・にんにく・粉唐辛子少々・

一、白菜をきれいに洗い、よく水を切つてから、

二、白菜に分量の材料を混ぜて押しをする。

三、つけさまの子として健やかに美しく育つてほしいと皆でお願いいたしました。

まるまるとした元気な赤ちゃんでした。

四日か五日ぐらいがたべごろです。